

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会 <http://www.j-kana.or.jp/> email: info@j-kana.or.jp

11

November, 2015

vol. 399

Contents

建築探訪…01

会員仕事紹介…03

支部だより…05

全国大会報告…07

神奈川・横浜住まいみらい展報告…09

編集者のつぶやき…10



建築探訪

旧前川圀男邸自邸

県西支部

株式会社マツイアーキテクトコンサルタント 松井 正



品も非常に完成度が高く前川圀男事務所OBである中田準一氏の最新刊でも書かれているように、旧前川邸の中で既に様々な種がある事が分かり、改めてこの住居の重要性を再認識した。

旧前川邸の一連の動線に着目すると前川建築でよく登場する既存のケヤキを見ながらのアプローチは、目の前にそれほど高くない人止めの様な大谷石の壁が表

1 学生の頃からル・コルビュジェに陶酔して、坂倉準三建築研究所OBの設計事務所に勤務していた事からも意識的にコルビュジェの同窓であった前川圀男の作品を避けていたが、ここ10年くらいは私自身が最も魅かれている吉村順三の作品を訪れ文献を読む事で、アントニン・レーモンド事務所の同窓でもあった前川圀男作品にも魅かれるようになってきた。前川と吉村の住宅建築の共通点は、プラン重視の姿勢、仕上げの種類が少なくシンプルな表現を好む等で特に、旧前川圀男自邸(以後は旧前川邸)で着目してみると、色使いが非常にラディカルで塩梅が絶妙である、北側サロンの窓は通常とは逆のガラス戸が雨戸の外側にある納まりである、上りやすく美しい階段等があげられる。

幸運な事にこの数か月の間にイベントを通じて、前川作品の代表作である埼玉会館、埼玉県立博物館(現・埼玉県立歴史と民族の博物館)、東京文化会館を見学させていただいたが、どの作



れてジグザグに進み、シーンを連続させる。玄関に入る直前にも迂回させて庭へと視線を導き、玄関にたどりつく。玄関ドアは茶室の躰り口を想起させるような小さいドアになっていて、天井の高さを抑えた廊下から軸回転のスイングドアを開けるとまずは持ち出しネタの天井の低いスペースを経由してから、天井高4.5mの明るいサロンへと誘導する巧みな演出をしている。



この住居の中心であるサロンには、動線を考慮した作り付けの台形のテーブル、蹴込みのない段板だけの無骨な階段、雨戸の戸袋が回転式で袖壁に納まる仕掛け等の巧みなディテールの他に、寸法体系も黄金比やモデュロールを使ったプロポーションの良い空間を体感する事ができる。

この旧前川邸が建てられた1942年は伝統再評価の機運から民家の再評価が高かった時代を反



映してか、外観は民家風の佇まいになっている。前川と付き合いのあった土浦亀城の自邸のモダンな外観を持つ住居に対して、5寸勾配の瓦の切妻屋根と縁甲板張り外壁は質朴なデザインとしながら室内空間は、東建ての和小屋と洋小屋による小屋組みを一切見せず、上階の書斎と一体になった吹き抜けの明るいサロン（＝居間）は壁と天井を見切りなしで仕上げた漆喰仕上げとしたホワイトキューブのような気積の大きいモダンな空間になっている。そしてこの白い壁に時間の経過とともに、サロン南側の台形に面をとった格子スクリーンを通して映ろう光と影は



時間の経過を忘れさせる心地よい空間をより増長させる働きを持っている。全ての作品で建物の外観を誇示する事を嫌うだけでなく既存の樹木を切ることを避けた前川は、旧前川邸では民家という伝統的な手法をとり周辺と調和させながらも、伊勢神宮のような棟持ち柱には、コルビュジェのピロティーを連想させそれは伝統と近代を共存させたのではないかと感じた。この旧前川邸は、優れた文学小説の様にいつ訪れても新しい発見（＝解釈）ができ今でもモダンに感じるのは、この建築が過去・現在・未来をも繋ぎ合わせる事を可能にした優れた建築であるためではないかと思われる。

ゆっくり時間を掛けて見学した後、日暮れ近くに住居の前に建つと一つの想いが頭を過った。この住居は中川一政の晩年の絵画（特に福浦突堤、駒ヶ岳）のようだと感じたのだ。

そういえば前川罔男も中川一政も「ムーブマン」を大事にしていた事をふと思い出し、旧前川邸を後にした。

2



鎌倉市景観上重要建築物「湯浅物産館」耐震改修・リノベーション工事

鎌倉支部：清興建設（株） 一級建築士事務所 久下 修（管理建築士）



な模様が入った1階の天井パネルなど細部のディテールも魅力に溢れたものでしたが、その後建物の使われ方が変わり、住宅と自己用の店舗等になり、2階は活用されず、弊社が相談を受けた時はかなり老朽化が進んだ状況にありました。また東日本大震災時には間口方向に大きく揺れ、倒壊の心配もありました。

■耐震改修リノベーション

平成25年春、建物の有

■建物について

明治30年に湯浅新三郎氏により貝細工の製造加工や卸売りの店として創業、関東大震災による焼失などを経て昭和11年に建て直され現在の形となった築78年の木造建物です。当時は全国から行商人が集まり、2階は宿としても使われ活気溢れる様相を呈していました。木造2階建、間口6間、奥行11間半という大きな建物で、店舗の中央に吹き抜けを配し、回廊を巡らせ天窓から明るい陽射しを採り入れた構成で、1階店舗は7寸柱4本のみで中央に壁は無く広い空間が確保されています。若宮大路に面するファサードは、半円形の装飾窓とスクラッチタイルで構成された西洋風商業ビルの「看板建築」スタイルとなっており、昔より華麗かつ風格のある外観で目立つ存在となっていました。回廊の手摺や繊細

効利用の相談があり、協議した結果耐震改修リノベーションを行うことで決定しました。それはこの建物に思い入れのあった先代御主人の意思を尊重したことと、鎌倉市の景観上重要建築として登録されていること、鎌倉市の補助金を受けることも可能となったこと等によるものでした。計画にあたっては建物の持つ魅力を最大



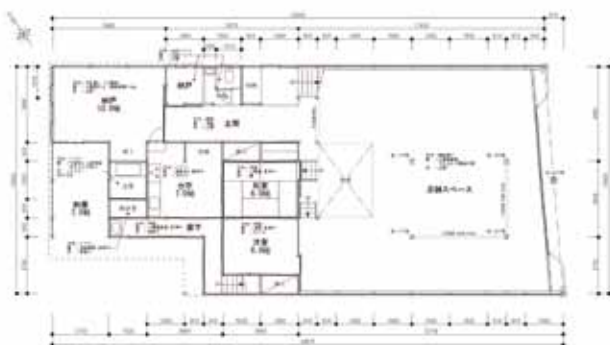
限活かし、古き良きところを残しつつ、安全で機能的な空間ヘリノベーションすることをコンセプトとし、鎌倉支部の協力を得て進められました。

耐震補強計画は、1階の空間の補強として、梁間方向の壁の新設が必要でしたが、店舗中央に壁を設けたくないことから外壁側に袖壁の耐力壁を設けテナント展示ブースと一体感を出すよう配慮しました。吹き抜け上部のトップライトは老朽化した波板を撤去し、新規ガラスを嵌め込みました。改修前はトップライトと店舗の繋がりは希薄でしたが結果吹き抜けを介して1階と2階の店舗が立体的に繋がりと、とても素晴らしい空間となりました。破損していた天井パネルなども補修され、1階の店舗の奥は店舗とカフェに生まれ変わりました。2階は回廊を中心に以前の古民家のイメージを生かしてした内装計画とし、着物写真スタジオとなりました。工事は平成25年12月末から3か月という短い工期でしたが、施主のご協力を頂き、各担当一丸となって作業にあたり、建物の持つDNAを活かしつつも安全で機能的な建物として再生され、今後も鎌倉の重要な景観形成を担っていくことになると思われます。



4

また今年度の日本建築防災協会の耐震改修優秀建築表彰の候補となり、審査委員の現地調査を受けました。



改修前1階平面図1/150



改修前2階平面図1/150



改修後1階平面図1/150



改修後2階平面図1/150

支部だより

東京おもちゃ美術館見学会（廃校利用と木育）

川崎支部 恩田 耕爾

9月25日小雨ふる中、東京、四谷にある東京おもちゃ美術館の見学会が支部主催で行われました。「おもちゃ美術館」は開校100周年を期に、昭和10年にドイツ人によって設計された新宿区立四谷第4小学校をリフォームして2008年に美術館として設立された。(昭和6年頃には生徒数1000人もいた木造校舎でしたが火災により消失した。その後RC造になるも生徒数も80人に減少して廃校となった。)



おもちゃ美術館



多くの生徒数がいた頃の状況

今回、支部企画部では木材利用促進がらみで見学会が計画されました。平成22年の「公共建築物における木材の利用の促進に関する法律」の公布後、近年木材の利用が日本だけでなく、世界的にも浸透していますが、建築のみならず、ここでは木を使ったおもちゃでの「木育事業」が行われています。教室ごとに「おもちゃの森」、「赤ちゃん木育広場」、「おもちゃのまち」などがあり、親子で遊べる美術館となっています。赤ちゃん広場では20組くらいの親子さん達が、平日の雨の中でもこども（乳幼児）と一緒に遊ばれていました。



赤ちゃん木育ひろば



おもちゃのまち

廃校利用としての成功事例としてのほかに、もう一つ、この学校はRC造建築物の建築遺産としても価値ある建物であることに気がきます。通常、標準スパン、8m×8mが教室の大きさになり、柱4本で支えますが、ここは中間部分にも柱があり構造的にもとても丈夫そうです（耐震補強工事はされていましたが）。大正12年の関東大震災後の構造強度向上を、外国人設計技士は強く意識したかも知れませんが。コンクリートの状態もとてもよいです。柏木支部長の挨拶、多田館長のお話と館内見学、田辺木材利用促進委員長の挨拶迄2時間半の見学会でした。

支部だより

「神奈川・横浜住まいみらい展」

横浜支部副支部長 山口 英生

「神奈川・横浜 住まいみらい展」が、10月17（土）18日（日）の2日間に渡り、横浜市中区の山下公園前の横浜産貿ホール マリネリアを会場に、盛大に開催されました。これは1年前から国や神奈川県および横浜市のほか、関係15団体が何度も集まり、かんかんがくがく侃々諤々と意見をたたかわせ検討してきたもので、ようやく開催の運びとなったものです。

初日は生憎の空模様でしたが、高円宮妃殿下によるテープカットが盛大に行われ、日曜日は快晴だったこともあり、多くの家族連れが各ブースや起震車での地震体験、ドイツ製の鉄道模型や燃料電池自動車の展示、カンナ削りやこども空間ワークショップ、かまぼこつみきなどの各団体が工夫を凝らした企画を楽しんでいました。また各種の講演会も同時開催で行われ、数多くの聴講者でにぎわっていました。



横浜支部は「無垢の木ワークショップ」と題して、無垢の端材を活かしてモザイクタイルで模様付けするコースターづくりや写真立てづくりを来場者と一緒に行い、同時に壁に掲示した『横浜都市デザインビジョン』のスケッチページを大きな台紙にして「我がまちへの思い」や「日々の暮らしでの要望」を、付箋に書いて貼ってもらう、という2本立ての企画を行いました。いずれの企画も老若男女を問わず多数ご参加いただき、都市デザインビジョンもたくさんの付箋で彩られました。付箋の中身はどちらかと言

うと不平不満より「地元自慢」や「満足している」と書かれたものが多かったのが印象的でした。またご参加いただいた方から「ふだん自分の街のことなど考えもしなかったが、この企画で改めて考える機会をもらって良かった」とご感想を頂いたり、「とても面白い企画だね」とお褒めの言葉をいただけて、楽しく2日間を終えることができました。デザインビジョンの台紙はまだまだ汚せる余地が残っているので、次の企画でまた引き続き使っていこうと思います。



全国大会報告

全国大会（茨城大会）に参加して

広報情報委員会副委員長 三村 邦彦



10月16日（金）茨城県水戸市において「第39回 建築士事務所全国大会 茨城大会」が茨城県立県民文化センターで開催されました。

神奈川県89人を含む、全国から来賓・構成員等約1,600名が参加されました。

今大会テーマは「復興の歓び」、大会スローガンは「彰往考來のところに学ぶ」です。

大会スローガンの「彰往考來」とは、過去をあきらかにして未来を考えると意味で、我々建築士は建築の設計という生業(なりわい)を通じ、語り継がれる仕事をできることを誇りに歓びを感じなければならないと説明されました。

開会宣言前に、「弘道館の震災復旧事業に携わってーその過去・現在・未来を考える」と題して、茨城大学名誉教授鈴木暎一先生と弘道館の資料研究業務に携わる小坪のり子氏の対談で、東日本大震災の被害が甚大であった弘道館の復旧、技術・文化的価値の説明、未来への展望等について伺えました。

次に、基調講演「人びとの集まる、しなやかな建築」と題して、古谷誠章氏（建築家・NASCA代表、早稲田大学教授）・妹島和世氏（建築家 妹島和世建築設計事務所代表）による豪華な講演を聴講できました。

開会宣言後、大会は滞りなく進

みました。表彰式では、残念ながら日事連建築賞に神奈川会の受賞はありませんでしたが、平成27年度年次功労者表彰を神奈川会から前副会長の芝京子氏が受賞されました。心よりお慶び申し上げます。

また、会員増強単位会表彰受賞者を代表して挨拶された石川県会 西川会長の会員増強の具体的なお話は参考になる内容で大変貴重なメッセージと感じました。

2年後の第41回開催地の和歌山県が紹介され、和歌山会の小川会長から「海と山の国・和歌山」でまたお会いしましょうと挨拶・大会旗伝達し、閉会宣言で大会式典が締めくくられました。

その後、シャトルバスで水戸プラザホテルへ移動し、記念パーティが開催されました。



右から2番目芝京子氏

全国大会報告

全国大会（茨城大会）記念パーティーに参加して

広報情報委員 杉本 勝郎

大会式典終了後、会場からシャトルバスにて移動。少し離れた水戸プラザホテルに到着しました。豪華なコンベンションホールで待つこと暫し。18時30分を少し廻ったところで日事連大内会長の開催のことば、茨城会 横須賀会長の挨拶、各界の来賓祝辞を頂きパーティーが始まりました。広い会場も全国の仲間達がひしめき合い熱気は高まるばかりです。地元の銘酒の鏡開きでは、皆、樽酒の中味に興味集中しているといった趣です。

それからは奥久慈のしゃも鍋、栗ご飯等のご馳走に舌鼓を打ち、美酒で喉を潤しながら歓談に花を咲かせていましたが、アトラクションでは地元土浦出身の「寺内タケシとブルージーンズ」

のミニコンサートが始まりました。

往年のヒットソングと、エレキギターの調べに、これまた往年の青少年たちがステージに詰めかけ会場は興奮の頂点に達しました。

写メを撮りまくる人、手拍子をしながら口ずさむ人、最後にご本人から直接ギターのピックを頂く人、一番の盛り上がりを見せながら中締めへと進みます。

その後 場所を移し水戸駅近くの居酒屋で神奈川会の懇親会も行われ、今度はゆっくりと座りながらの歓談。夜が更けるのも忘れ話が盛り上がり、お酒の空瓶が積み上がる光景に「皆さんタフだなー」のひとことが思わず口に出てしまう、そんな一日でした。



神奈川・横浜住まいみらい展報告

1日目

このたび「神奈川・横浜住まいみらい展」に行って参りました。

会場は、熱気にあふれ約50のブースで展示を行っていました。神奈川県と横浜市も展示を行っていました。日本建築学会、神奈川建築士会、日本建築家協会のブースも見えました。

また、中央イベントブースでは、さまざま

広報情報委員 新倉 良一

なアトラクションを行っていました。「地球にやさしく、安全で健康に暮せるこれからの住まい」が展示のキーワードです。また講演会セミナー会場では、さまざまな住まいの知識が習得できました。会場には皇室の高円宮も見学に見えられ多くの人々があつまりました。



9

2日目

昨日の肌寒い日と変わり、今日は曇りから快晴へと変わり2日目に向かえました。

ブースには「地球にやさしく、安全で健康に暮らせるこれからの住まい」をテーマに50を超える出展がありました。

講演会場では午前、午後と4人の講師による講演が行われました。

その中の一つ「住宅設計と環境デザイン」を覗いてみると10時30分の開演にもかかわらず七割の座席が埋まり関心の高さがうかがえ

広報情報委員 坪井 教一

ました。

神奈川建築コンクール・パネル展示場では入賞作品が展示されていました。回数を見ますと第59回とあり伝統あるコンクールで戦後復興促進が目的であったことを知りました。

作品を拝見させていただくと、環境を考慮した建物を感じました。昨日の寒さが影響したのか外の人通りも少なくフェア会場も少し寂しい思いをしましたが各ブースでは担当の皆さんが力の入った2日間となりました。



新入会員のご紹介

9月入会者

横浜支部

リストマネジメント株式会社一級建築士事務所 川端 伸裕
〒231-0015 横浜市中区尾上町4-47
TEL.045-664-9990 FAX.045-664-9991

大和・綾瀬支部

露木電気ビル管理二級建築士事務所 露木 汎明
〒242-0022 大和市柳橋3-11-21
TEL.046-269-5558 FAX.046-269-5558

10月入会者

横浜支部

協同組合カップ設計一級建築士事務所 池田 翼
〒231-0028 横浜市中区翁町2-8-6東里ビル216
TEL.045-212-1682 FAX.045-212-1683

横須賀支部

クラウドナイン一級建築士事務所 大根田 雄一
〒238-0014 横須賀市三春町6-56-10
TEL.046-876-8189 FAX.046-876-8189

鎌倉支部

石原工務店一級建築士事務所 石原 貴司
〒247-0074 鎌倉市城廻396
TEL.0467-46-3945 FAX.0467-46-3985

平塚支部

ぶなのスタジオ一級建築士事務所 大西 智子
〒255-0004 中郡大磯町東小磯352-1 センチュリーホーム大磯201
TEL.0463-61-8955 FAX.0463-61-8955

座間支部

アネストデザイン一級建築士事務所 吉田 祐子
〒252-0001 座間市相模が丘5-14-44
TEL.042-741-4413 FAX.042-741-4413

県西支部

稲葉建築事務所 稲葉 勉
〒259-0304 足柄下郡湯河原町宮下736-9
TEL.0465-62-8155 FAX.0465-62-8156

11月入会者

大和・綾瀬支部

(株)アドバンスウイング 片平 明
〒242-0021 大和市中央4-4-26-402
TEL.046-206-5802 FAX.046-206-5802

退会者

横浜支部

メイセイ二級建築士事務所 後藤 哲也

高杉勉一級建築士事務所 高杉 勉

AY設計室 小野 綾子

湘南三浦支部

尾鷲一級建築士事務所 尾鷲 年久

賛助会新入会員

平成27年度入会者

株式会社 三誠
ツルミ印刷株式会社

会 勢

支部名	平成26年3月末日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	264	268	14	12	2
川 崎	105	104	5	6	-1
横 須 賀	51	52	2	1	1
湘南三浦	17	16	0	1	-1
藤 沢	25	28	3	0	3
鎌 倉	38	37	1	2	-1
茅ヶ崎寒川	19	18	0	1	-1
平 塚	21	21	1	1	0
秦 野	20	18	0	2	-2
伊 勢 原	8	9	1	0	1
大和綾瀬	18	18	1	1	0
厚 木	32	33	1	0	1
座 間	12	13	1	0	1
海老名	14	14	0	0	0
愛 川	7	7	0	0	0
相 模 原	76	75	3	4	-1
県 西	42	42	1	1	0
合 計	769	771	33	31	2
賛助会員	79	75	0	4	-4

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。

※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき

今月の表紙も夜景ですが、夜景には妖しい魅力があります。時間軸がずれただけで雰囲気が一変し昼間には想像もつかない魅力ある空間と化す訳です。古来月明りを愛でた風流人は別にして、暗闇が人々の恐れを呼び、灯火の費用もままならない理由もあり夜はひっそりと過ごされたことでしょう。文明度が上がるにつれ、明かりが発達するにつれ夜を楽しむことが出来るようになったのだと思います。我が国も京都を代表とする茶屋遊びがそのひとつと言えるのかもしれませんが。たとえ限られた人だけの遊興の場であったとしてもその賑わいは魅力ある空間だったのでは無いかと想像します。

ここ北国の小京都、金沢もその名ごりを残す街のひとつです。北陸新幹線開通の影響で、在来線時代の数倍の観光客でにぎわう彼の地ですが、優雅な雰囲気の「ひがし茶屋街」も夜の帳が下りると一変した姿を見せてくれます。ある日 夜も更けてふらふらと迷い込んだのがひがし茶屋街。まさに異空間。夜風に背中を押されて、あてどなく徘徊する旅人をやさしい明かりが迎えてくれているようでした。

【相模原支部 杉本 勝郎】



かながわ 平成27年11月号（通号399号）

発行 平成27年11月1日（奇数月1日発行）
発行人 小林 忠志
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 第3不二ビル2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担 当 副 会 長 小渡 佳代子
・ 広報情報委員長 白川 正孝
・ 広報情報副委員長 三村 邦彦 小泉 厚
・ 広報情報委員 雨森 隆子 恩田 耕爾 清田 鈴美子
・ 新倉 良一 小井口 英寿 坪井 教一
・ 杉本 勝郎 神尾 明美
・ 事務局 小林 恵美



今月の表紙

川崎工場夜景

ここ数年密かなブームである工場夜景。今まで文字通り人知れず日の当たらなかつた場所が観光スポットとして人気が高まっています。ここ川崎は日本五大工場夜景のひとつとして名を馳せています。水銀灯の妖しい光の中、突然噴き出すフレアスタック（煙突の炎）に心を奪われながらこの後訪れる酒場のことを考える自分がいました。



一般
社団法人

神奈川県建築士事務所協会

Kanagawa Architect Office Association